

- ・
- ・
- ・

スポーツドクター

スポーツドクターとは

スポーツ選手やスポーツをする人々の健康管理、スポーツ障害に対する予防や治療、スポーツ医学の研究・教育・普及活動を行う、(財)日本体育協会に認定された医師のことを言う(日本の医師免許取得者に限る)。

スポーツドクターになるためには、(財)日本体育協会認定のスポーツドクター養成講習会を受講する必要がある。

講習終了後は特に検定試験は実施せず、日本体育協会による審査が行われ、スポーツドクターとして認定される。

資格登録の際には、医師免許取得後5年以上の経過がなければ、登録出来ない。

スポーツの活動を医学的な立場でサポートし、チームドクターとして選手を支えたり、スポーツを楽しむ多くの人達の健康管理を行うスペシャリストとして活躍することが出来る。



-
-
-

スポーツドクターの受験資格

日本の医師免許を有し、(財)日本体育協会あるいは日本体育協会加盟団体が推薦し、日本体育協会がそれを認めた者。



-
-
-

スポーツドクターの試験内容 試験科目

■基礎科目■

スポーツ医学概、神経・筋の運動生理とトレーニング効果、呼吸・循環系の運動生理とトレーニング効果、内分泌・代謝系の運動生理とトレーニング効果、運動と栄養・食事・飲料、女性と運動、運動と年齢—整形外科系、運動と年齢—内科系、心と運動、運動のためのメディカルチェック—内科系・整形外科系、スポーツによる生理的変化と病的変化 他

■応用科目■

スポーツと環境、スポーツ心理、筋力トレーニング、持久性トレーニング、クリニカル・バイオメカニクス、体力測定、競技選手に多い疾患—貧血、オーバートレーニング、循環器疾患、呼吸器疾患、内分泌・代謝疾患、腎臓疾患、脊髄・脊柱、上肢、下肢、外科的疾患、アスレティック・リハビリテーション、競技選手の健康管理、スポーツと薬物 他



・
・
・

資格の取得講習期間

日本体育協会で開催する養成講習会(基礎科目、応用科目)を受講する。

受講する際の条件として、日本の医師免許を持ち、

日本体育協会加盟団体(都道府県体育協会、中央競技団体)から推薦を受けた者。

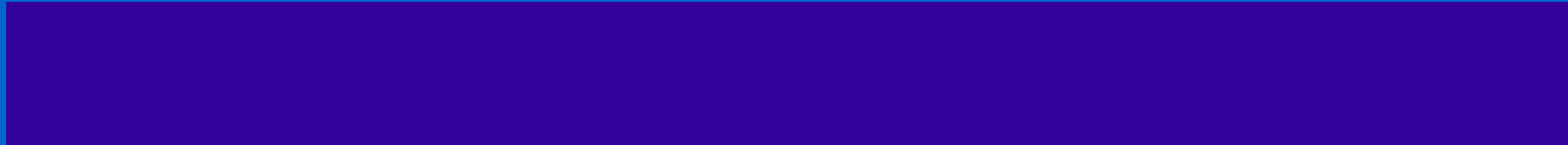
土日の講習を計5回(基礎科目2回、応用科目3回)、2年をかけての開催。

まず初年度に、基礎科目から受講。基礎科目のすべてを受講すると、翌年度は応用科目を受講。

欠席せずに全ての講習を受講すると2年で修了。



-
-
-



アスレチック・トレーナーへ



-
-
-

